

【5年（書くこと）】

書き表し方を工夫し、『おすすめの本カード』を作ろう（「この本、おすすめします」）
指導者 庭月野 竜王（水俣市立袋小学校）

視点1 学びを自覚するための手立て

視点2 共に学び続けるための工夫

単元

学びの土台

これまで：自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にし、書き表し方を工夫する
これから：自分の考えが伝わるように、目的や意図に応じて書き表し方を工夫する

学習課題

目的や意図に合わせて必要な情報を整理し、書き表し方を工夫して、下級生にむけて『おすすめの本カード』を作ろう。

指導事項

目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること B書くこと(1)ウ

思考操作

目的や意図に合わせて必要な情報を整理する

言語活動

「おすすめの本カード」を作る

<立ち止まって振り返る場>

終末では、児童に本時の「気づいたこと」、「なるほどと思ったこと」、「今後生かしていきたいこと」を振り返らせ、学びを価値づけるようにする。

<考えを表出し比較する場>

構成の工夫について、タブレット端末を使って、自分の意見と他の意見を比較することで、考えを深めることができるようにする。

言葉による
見方・考え方を
働かせる

<納得解を生み出す根拠や理由づけの充実>

構成の順序や工夫について2種類の文章を比べながら考えることで、児童が根拠や理由付けを明確にしなが、よりよい納得解を生み出すことができるようにする。

本時

本単元で目指す子どもの姿

自分の考えが伝わるように、目的や意図に合わせて情報を整理しながら、粘り強く推敲を重ね、書き表し方を工夫して、文章を書こうとする子ども。

第5学年1組 国語科学習指導案

指導者 水俣市立袋小学校 庭月野 竜王

- 1 単元名 書き表し方を工夫し、下級生にむけて『おすすめの本カード』を作ろう
「この本、おすすめします」（光村図書5年）
- 2 学習課題 目的や意図に合わせて必要な情報を整理し、書き表し方を工夫して、
下級生にむけて『おすすめの本カード』を作ろう。
- [指導事項] 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実
と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように
書き表し方を工夫することができるようにする。 B書くこと（1）ウ
- [思考操作] 目的や意図に合わせて必要な情報を整理する。
- [言語活動] 下級生にむけて『おすすめの本カード』を作る。

3 単元について

<教材観>

本題材の特徴としては次の通りである。

- ・本という題材は、子どもにとって身近な存在であり、推薦するために読書に取り組むため、学習上も意義が大きい。
- ・言語活動については、推薦する対象と、推薦する相手の特徴を十分に理解してから取り組む必要がある。
- ・自分が推薦した本を友達に読んでもらうことで、達成感を味わいやすい単元である。

以上の特徴から、目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方の工夫を考慮することができる教材であると言える。それらを考えていく際に、相手意識をもって、推薦文を書こうとする姿が期待される。そのような学びを生み出すために、『おすすめの本カード』作りという言語活動を核にした単元を構想する。

<児童観>

子どもたちは、これまで4年「もしものときにそなえよう」や5年「あなたは、どう考える」などで文章の感想を伝え合い、自分の考えが伝わっているか確かめたり、根拠を示し、説得力のある意見文を書いたりする経験している。

そのような学習を通して、目的や意図に応じて文章を書くことはできるようになっているが、自分の考えが相手に伝わるような説得力のある文章が書ける児童はまだ少ない。

<視点について>

[視点1] 学びを自覚するための手立て

第一次においては、今まで既習題材である「あなたは、どう考える」の学習で説得力のある文章を書いたことを想起できるようにする。そして今回は、相手意識をもって推薦文を書いていくことを伝える。その際、指導者が実際に作成した『おすすめの本カード』を提示することで、単元の学習を見通すことができるようにする。加えて、各学年の本の貸し出し状況を提示することで、児童の「本をおすすめして、貸し出し状況を改善させたい。」という意欲を高めるようにする。

第二次においては、相手にとって分かりやすい推薦文を書くために、「気づいたこと」、「なるほどと思ったこと」、「今後活かしていきたいこと」という3つの視点を与え、学習を振り返ることができるようにする。授業の導入や終末で、児童の振り返りを共有する時間を設けたり、教師がコメントを記入し、児童の振り返りを価値づけたりすることで、何を学習したのか、自覚を持つことができるようにする。

[視点2] 共に学び続けるための工夫

おすすめの本カードの構成を考える際にはタブレット端末を使い、児童が考えた構成を比較・共有することで、考えを深める場を設定する。

実際にカードを書く作業の際は、見出しの付け方や文章の言葉選びなど、「言葉による見方・考え方」を意識しながら学習に取り組めるようにする。また、実際に書いた文章はペアやグループで確認しながら、学習を進めることで根拠や理由付けを明確にして、学習を進められるようにする。

4 単元の見直し

- 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づくことができる。
(知・技) (1) ア
- 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にすることができる。
B書 (1) ア
- ◎ 目的や意図に応じて簡単に書いたり、詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。
B書 (1) ウ
- 文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。
B書 (1) カ
- 粘り強く、文章全体の構成を考え、学習の見直しをもって推薦文を書こうとする。
(学・人)

5 指導と評価の計画 (7時間取り扱い)

次	時	学習活動	教師のかかわり	評価規準 [評価方法]
一	1	○単元の見直しをもつとともに、推薦する本を選ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の図書室の利用状況を提示し、児童に「本を紹介したい」という必要感をもつことができるようにする。 ・指導者作成のカードを提示することで、言語活動のイメージをもてるようにする。 ・何年生に向けてカードを書くか話し合った後、推薦したい本を選ぶことができるようにする。 	
〈学習課題〉 書き表し方を工夫し、下級生にむけて『おすすめの本カード』を作ろう				
二	2	○推薦する本の内容や推薦したい理由を書き出す。	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次で選んだ本の推薦したい理由と内容などをマトリックスとタブレット端末に書き出し、視覚化することで情報を整理できるようにする。 	
	3 本 時	○前時に書き出した内容から、必要な情報をまとめ、カードの構成を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書や教師が提示した例の中から構成のポイントを見つけ、『おすすめの本カード』の構成を考える活動に生かせるようにする。 	【思】 目的や意図に応じて集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にしている。 [ワークシート・タブレット端末]
	4	○前時に考えた構成を基に、カードの下書きを書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に書いた構成用紙を参考に、自分が書き出した情報を見ながら、下書きを書くことができるようにする。 	【思】 自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して下書きを書いている。 [タブレット端末・カード]
	5	○下書きを個人やグループで見直し、互いに助言を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に書いたカードの下書きを個人やグループで確認し、本の魅力を簡潔に伝えるために、文章表現を工夫することができないか考えることができるようにする。 	【思】 文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。 [タブレット端末]
	6	○清書を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・書き表し方の工夫を確認することで、丁寧に清書を書くことができるようにする。 	【主】 粘り強く、文章全体の構成を考え、推薦文を書こうとしている。 [カード]
三	7	○完成したカードを互いに見合い、感想を伝え合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・完成したカードを互いに見せ合い、感想を伝え合わせ、本単元の学習を価値づける。 ・完成したカードは、実際に下級生に贈ることで、児童の達成感につながるようにする。 	【知】 言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることに気づいている。 [カード・発表]

6 本時の学習（3／7）

（1）目標

本の魅力を伝えるために、例文から構成の工夫を見つける活動を通して、目的や意図に応じて、伝えたいことを明確にしながらか推薦文の構成を考えることができる。

（2）展開

時間	学習活動	○教師のかかわり ◆評価 [方法]	備考
5	1 前時の学習を振り返り、本時の課題を捉える。	○前時では、本の内容やおすすめのポイントをまとめたことを確認し、本時では、下級生に本の魅力が伝わりやすいカードの構成の工夫について考えていくことを伝える。	タブレット端末
み力が伝わりやすいカードを作るためには、どのような構成にすればよいのだろう。			
10	2 例文を参考にして、カードの構成の順序やポイントをワークシートに書き出す。	<p><u>〈視点2-②〉納得解を生み出す根拠や理由付けの充実</u></p> <p>○構成の順序や工夫について2種類の文章を比べながら考えることで、児童が根拠や理由付けを明確にしながらか、よりよい納得解を生み出すことができるようにする。</p>	ワークシート
15	3 カードの構成の工夫についてペアで確認した後に、全体で共有する。	<p>○それぞれのペアで考えを整理し、全体で共有することでよりよい構成の順序や工夫について考えられるようにする。</p> <p><u>〈視点2-①〉考えを表出し比較する場</u></p> <p>○構成の工夫について、タブレット端末を使って、自分の意見と他の意見を比較することで、考えを深めることができるようにする。</p>	タブレット端末
10	4 本時で学習した構成の工夫をもとに、自分のカードの構成を考える。	<p>○本時で学んだ、相手に魅力が伝わりやすい構成の順序や工夫をもう一度確認し、自分のカードの構成を考えられるようにする。</p> <p>○タブレット端末を使い、文章の順序を並べ替えることでよりよい構成を考えることができるようにする。</p> <p>◆本の魅力を伝えるために、必要な情報を整理する活動を通して、目的や意図に応じて、伝えたいことを明確にしながらか推薦文の構成を考えている。 [発言・ワークシート]</p>	表 タブレット端末
5	5 本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	<p>○本時で学習した構成のポイントを振り返り、自身のカードの構成をどのように改善させたのか確認することで、学びを価値づけるようにする。</p> <p><u>〈視点1-③〉立ち止まって振り返る場</u></p> <p>○終末では、児童に本時の「気づいたこと」、「なるほどと思ったこと」、「今後生かしていきたいこと」を振り返らせ、学びを価値づけるようにする。</p>	振り返りカード